

<今回>202回目 2017年1月13(金)16時~18時 1503号室
読書は8冊目「邪馬壹国の論理」79P その他の問題 より

<前回>201回目(16-12-26) 出席者11名
資料 16-12-26-1) 前回のまとめ(清水)
-2)鳥取美人(新聞記事)
-3)百衲本 跋文(富川)

A 報告

2016年最後の読書会になった。忘年会は寄付もいただき参加者10名で盛大に行う。

津多家で10名、17798円(2000・6+1800・2+1500・2) 寄付3000円、+4212円(繰り入れ)

B 資料 -2)鳥取埋蔵文化財センター発表。青谷横木遺跡から墨絵の板絵資料の破片を奈良埋蔵文化財センターで洗浄し赤外線が高松塚古墳の女子群像に似た絵が発見された。6体の女性像、スカート状(縦縞模様) 70cm長15cm高、板には穴が開けられ、墓の壁に吊るされた様子。7世紀~8世紀。高松塚古墳像より古いか。C14の測定が待たれる。3)百衲本の跋文がコピーされて配布された。校史随筆にない日本訪帝室図書寮旧蔵宋本借影の文字くらいが見つけられるが判読は誰かお願いしたい。

C 読書「邪馬壹国の論理」P75 三 虚像と実像 から

- 1) 壹の使用法。陳寿においては「臺」は至高文字である。天子の象徴でなっていると論に批判がある。榎氏は古田が勝手にそう決め込んでいるとの指摘に対して、江戸時代の大儒中村菡林の「学山録」(寛延三年1751年)で晋宋の間朝廷禁省を謂いて「臺」と為す。と例示して、中国宋代より江戸期まで周知の説と反論。
 - 2) 人名における臺。臺が神聖な文字なら人名に使うはずがないと批判に対して、諱の説と取り違えている。卑字の中に特殊な貴字を混用する筈がない。三国志に孫聖臺という人名がある。聖の文字が人名にあるが聖の文字を卑字と同列に表示する筈がないという。
 - 3) 宮の字の使用。宮は高句麗王の名(宮、位宮)に現れているから。臺の使用があってもという指摘は(榎氏の問題の本質を見誤っている好例)宮の文字の使用は三国志では夷蛮の国々に使用されている。宮室、楼観は臺に当たる。宮は夏殷周では特殊かもしれないが三国志では一般化し、夷蛮の王でも使用は可である。富川さんから宮、室、楼、観は一字読みではないかと提起があった。
 - 4) 後漢書の邪馬台国は間違いではない。古田は後漢書の邪馬臺国は間違いと言っていると論難しているのに対して、古田は五世紀の表記で三世紀の三国志の表記を改訂してはならないと言っているのであって五世紀の邪馬臺国は誤りと言っているのではない。
- ① 後漢書の倭伝の冒頭部(地の文)は南朝劉宋(五世紀)の読者を対象に書かれたもの、五世紀の国名である。
 - ② 後漢書特有の国名は建武中元二年(57年)の倭奴国である。
 - ③ 5世紀の南北朝対立期の北朝は臺のインフレの時代で邪馬臺国の表記はありうる。(東夷の倭国が自ら使用したとしても不審はない)以上の前提で「失われた九州王朝」を見てほしい。
- 榎氏の15回の論稿はすべて「邪馬台国はなかったか」である。「邪馬台国」はなかったではない。かぎ括弧の位置が違う事に注意喚起した。

次回日程 2017-1-30(月) 15時~18時 1503号室
-2-10(金) 15時~18時 601号室
-20(月) 15時~18時 603号室